

私たちの自然



公益財団法人 日本鳥類保護連盟
Japanese Society for Preservation of Birds

特集▶野鳥を知る・楽しむ ～都市緑地～



紅葉の季節

11月から12月、東京で撮影

大都会東京にも紅葉を楽しめる場所はたくさんあります。そんな東京の紅葉の中で出会った野鳥たちです。

江口欣照（東京都府中市）



エナガ



メジロ



コゲラ



ジョウビタキ

スタッフだより

南半球の星空

9月初旬、オーストラリアのケアンズに4日間行ってきました。今回の目的は鳥を見ることもありますが、もう一つの目的は南半球の夜空を眺めることでした。

南半球の星空といえば南十字星（サザンクロス）が有名ですが、他にもりゅうこつ座のカノープス、エリダヌス座のアケルナル、ケンタウルス座 α 星 & β 星など、日本ではなかなかお目にかかれない一等星をオーストラリアではよく観察できます。さらに、大マゼラン雲と小マゼラン雲という、日本からは見えない銀河も観察できました。

さすがにケアンズ市街では街明かりが強く、星がよく見えません。そこで、車を借りて少し内陸の「Innot Hot Springs」という場所でキャンプをしました（写真1）。季節は冬でしたが、このあたりは温暖で夜も寒くありません。当日は月明かりもなく、お目当ての星空を存分に堪能できました。奇跡的に、夜空で1番明るい恒星シリウスと2番目に明るいカノープス、そしてオリオン座が並んだ構図を撮影している最中、その間を火球が流れました（写真2）。一生の宝物です！

鳥も見つける鳥ほとんどが初めて見る種ばかりで、まさに天国のような場所でした。鳥のことは、また別の機会に紹介できればと思います。 吉田裕樹（普及啓発室）

※執筆者の都合により、今号の植物豆知識は休載とさせていただきます。



写真1 Innot Hot Springs のキャンプ地



写真2 オリオン座、シリウス、カノープスの間を火球が流れた瞬間

私たちの自然

第 66 巻 No.661 2025 年 11・12 月号



特集 野鳥を知る・楽しむ ～都市緑地～

- 2 都市公園での野鳥観察 (中村忠昌)
 - 5 都市公園おすすめ探鳥地①：
小田原城址公園 (神奈川県) (小泉俊江)
 - 6 都市公園おすすめ探鳥地②：
富岩運河環水公園バードサンクチュアリ (富山県) (湯浅淑子)
 - 7 都市公園おすすめ探鳥地③：京都御苑 (山副茂彦)
 - 8 都市公園おすすめ探鳥地④：尾関山公園 (広島県) (漆谷光名)
 - 9 都市公園での巣箱プログラム (連盟 普及啓発室)
-
- 11 野鳥を詠む俳句 結果発表
 - 12 生きものはつながっている
トラツグミ (中島慶二)
 - 14 生きものはつながっている
ムカデを観察しよう (奥山風太郎)
 - 16 羽根探偵の謎解きファイル ～エピソード 5～ (郷上マナツ)
 - 18 日本鳥学会 2025 年度大会に参加しました (連盟 調査研究室)
 - 19 子ども鳥博士 参加者募集！
-
- 20 連盟だより／インフォメーション
 - 21 日本の野鳥カレンダー 2027 写真募集
 - 22 2025 (令和 7 年) 年間目録
 - 24 使用済み切手・カード類提供のお願い／商品の注文について／バックナンバーの提供について
／会費の有効期限の見方／広告募集／編集後記

ネイチャーフォト
紅葉の季節 (江口欣照)

スタッフだより
南半球の星空 (吉田裕樹)

表紙のことば

吉田裕樹 (連盟 普及啓発室)

近すぎたトラツグミ

(神奈川県秦野市にて撮影)

この写真を撮ったのが、私がトラツグミを初めて見た瞬間でした。あまりにも近く、しかもまったく逃げなかった。かなり前の出来事ながら今でも鮮明に覚えています。しばらく観察していると、体全体をフリフリし始めました。当時は「トラダンス」を知らなかったので、この個体の特異な行動なのかな？と思いました。



都市公園での野鳥観察

ネイチャーガイド 中村忠昌 文・写真

●はじめに

私は小学生の頃から鳥を見ていた変わりモノでした（笑）。当時はお小遣いも少なく、あちこち遠出する勇気もない「ビビリ」だったので、自転車で通える範囲にある都市公園を回っていました。そのため、地方にしかない鳥には会えませんでした。かなり意外な鳥たちが都市公園にもやってくることを経験でき、その魅力や価値を感じることができました。40年ほど経った現在でも、その都市公園で野鳥観察のツアーをやっているのは、もう「運命」かな～とも思います。

そんな私の経験を含めて、都市公園での野鳥観察の魅力をお話したいと思います。

●都市公園のオススメ時期

①春と秋の渡りの時期

都市公園で鳥見をしている方にとって一番ソワソワする季節は、春と秋の渡りのシーズンだと思います。普段はいわゆる「都市鳥」中心の公園に、オオルリやキビタキ、センダイムシクイ、ときにはサンコウチョウのような山に行かないと出会えない鳥たちがやってくるからです。春はオスの美しいさえずりが聞ける「おまけ」がついてくることも（写真1）。

一方、秋はミズキやカラスザンショウなどの木の実にヒタキ類が集まったり、サクラの葉につくモン

クロシャチホコの幼虫などを食べにツツドリが集まったりと、食べものに注目すると観察しやすくなります。私も中学生の頃に通っていた公園で、サンショウの実を食べているムギマキを観察しました。あまりの驚きに膝がガクガクと震えたのは後にも先にもこの時だけ（笑）。運がよいとこんな経験ができるかもしれません。

②越冬期も面白い

春や秋の渡りシーズンには一歩及びませんが、冬の都市公園も十分に楽しめます。一般的な冬鳥であるツグミやジョウビタキはもちろん、薄暗い林床にはアオジやシロハラ、ときにはルリビタキが潜んでいます。都市公園でも人の導線から外れたエリアが狙い目です。落ち葉をめくる音や地鳴きを手掛かりに、できれば早朝に訪れましょう。

実のなる大きな樹木にも注目しましょう。エノキやムクノキの実にはツグミやシメ、イカルなど多くの種が訪れ、アキニレやイヌシデの実にはカワラヒワやアトリなどがやってきます。紅葉が美しいハゼノキには房状にたくさんの実がつき、多くの小鳥がやってきます。いろいろと樹木の名前を出しましたが、都市公園では樹名板が設置されていることが多く、樹木を覚えることもできます。私は大学時代に造園学を学んだのですが、子どもの頃から野鳥観察をしていたおかげで、



写真1 運がよいとオオルリのさえずりが聞けるかも



写真2 キクイタダキがやってくる「当たり年」も



写真3 ツミは小さな公園でも見かけるように

実のなる木は入学前から予習できていました。

少し広めの落葉樹林があれば、カラ類の混群が見られるでしょう。シジュウカラやメジロ、エナガ、コゲラなどが中心ですが、年によってヤマガラやキクイタダキ（写真2）、アカゲラなどが混じることがあり、気が抜けません。

なお、越冬期として野鳥を観察できる期間は、繁殖期や渡りの時期よりも長く、11月頃から翌3月頃まで。これも冬の魅力です。

③繁殖期も侮れない

都市公園の繁殖期は「閑散期」と言われがちで、高山や北海道に遠出をしたり、昆虫を観察する方も多いようです。ところが最近はどうでもありません。

例えば、以前は丘陵地に行かなければ出会えなかったエナガが市街地でも定着するようになり、都市公園でもヒナ連れの姿が見られるようになっています。運がよければヒナが並んでとまる「エナガ押し」が見られるかもしれません。また、小型の鷹のツミ（写真3）も繁殖するようになり、思わぬところから声を聞いたり、姿を見たりするようになりました。

このような都市環境への新たな種の進出は、古くはキジバトやヒヨドリ、少し前はコゲラなど以前から報告されていて、今後も同様の動きが観察されるかもしれません。

● 水辺は絶好の観察ポイント

都市公園に池や流れなどの水辺があれば、観察で



写真4 都内の公園で繁殖するダイサギ

きる鳥は一気に増えます。

池があればまずはカモを探しましょう。ある程度の面積があれば数種のカモ類は渡ってきます。カモ類の多くのオスは、冬期に美しい繁殖羽になるので、初心者でも識別しやすく楽しめます。また、渡り途中の秋には、普段は見られないカモが地味なエクリプスと呼ばれる羽色で混じることもあり、ベテランでも気が抜けません。

カモと一緒にぜひ探して欲しいのは、カワウやユリカモメなどについている足環です。都市公園では鳥との距離が近いので、水鳥の足環には色がついて番号を読み取れるものもあり、山階鳥類研究所に報告すれば貴重な研究データにもなります。

池だけでなく、小さな流れがあればセキレイ類が見られるでしょう。そして渡り時期にはシギやチドリの仲間が、冬期にはクイナの仲間が隠れているかもしれません。

さらに、これは都内の話ですが、サギ類が繁殖している公園がいくつかあります（写真4）。その内の一つは、以前はその兆候すらなかった公園で、ごく最近始めたようです。郊外の鷺山が撤去されたか何かの影響で、安全な都市公園に移動してきたのかもしれません。

● 最近気になる鳥たち

最近都市公園で気になっているのは外来種が増えていることです。カワラバト（ドバト）やワカケホンセイインコは以前から生息していますが、特定外



写真5 外来種のソウシチョウ

来生物のガビチョウやソウシチョウ（写真5）を見かける機会が増えてきました。繁殖している公園もあるようで、藪のような場所を営巣環境にすることで競合する可能性のあるウグイスのような在来種への影響が心配されます。

●どうして都市公園は観察しやすいのか？

都市公園を空中写真で見ると、住宅地などに囲まれた「緑の島」のように見えます。住宅地内の緑より、もう少し樹林面積が必要な鳥たちにとっては、「最後の砦」のような存在として集まってくるのでしょうか。一方で、そのような緑を巧みに利用し、近年都市に進出している種もいて、思いのほか多くの種に出会えるのだと思われます。

公園によっては、池などに観察窓を設置して、鳥を驚かさないように配慮している場合もあります。また、最近は野鳥への関心が高まっているのか、ウェブサイトで野鳥の観察情報を提供している公園もあります。

一方、人間目線で考えると、公園は快適性が高い空間です。私は昔からお腹が弱いのですが、園内にトイレがあることは非常な安心感があります（笑）。女性やお子さんにとってはさらに切実な問題でしょう。

この他、駐車場や園内の案内図、整備された園路、自動販売機等々、アウトドアに慣れない方でも安心して野鳥観察を楽しめるのが都市公園なのです。

●観察時の注意点

都市公園には野鳥のことなど興味のない人の方が多く利用しています。観察する際は迷惑にならないように注意しましょう。例えば、園路に三脚を置きっぱなしにして道をふさぐことや、多くの人が集まっていること自体も圧迫感があります。「野鳥を見る人＝迷惑な人」とイメージされないよう、くれぐれもご注意ください。

また、都市公園では意外と鳥との距離が近くなります。それが良い点であり、おススメする点なのですが、近づき過ぎると鳥を警戒させてしまいます。珍しい種に出会うとなおさらです。気持ちは分かりますが、そこはグッとこらえて、彼らの行動に影響を与えないよう配慮をお願いします。

●通ってみると見えてくることも

都市公園の魅力はまだまだ書ききれないほどありますが、最後にもう1つ。

お住いの近くに都市公園があったら、ぜひ通ってみてください。そして、気になった鳥だけでよいので記録をつけてみてください。例えばツグミ。昨年の冬は、各地で飛来が遅れて心配されましたが、このような身近な渡り鳥を取り上げて、初認日から大まかな個体数をひと冬つけるだけで、増減の傾向が把握できます。そして、数年分のデータを取れば、年による違いが見えてくるかもしれません。

これは何度も通える都市公園だからこそできる楽しみ方です。ぜひ自分なりのテーマを選んでスマホにメモすることから始めてみてください。わずかでも発見があれば、ちょっとした「研究者気分」を味わえますよ。

Profile

中村忠昌（なかむら・ただまさ）。1972年生まれ。環境コンサルで働きながら、葛西臨海公園鳥類園のスタッフなどを経験。現在はフリーのネイチャーガイドなどで活動中。最近は、遅ればせながら東京湾奥のシギ・チドリ類にはまってしまい日々勉強中。観察記録などはブログ『東京いきもの雑記帳』で更新中。

都市公園おすすめ探鳥地①：小田原城址公園（神奈川県）

公益財団法人日本鳥類保護連盟 神奈川県支部長 小泉俊江 文・写真

●探鳥地概要

小田原城址公園は JR 東海道線、小田急線、箱根登山鉄道の「小田原駅」から徒歩約 10 分にあります（図 1）。街中ではありますが、広大な敷地には天守閣や本丸広場、サクラ、ショウブ、フジ、アジサイ、ハスなど花も季節ごとに楽しめます。敷地内にある報徳神社はうっそうとした樹木に囲まれています。小田原城址公園は海にも近く、お堀、雑木林、湿地、竹藪などいろいろな環境があるので、観光客が多いにもかかわらず野鳥観察が楽しめる公園です。

●観察される野鳥

小田原城址公園にバードウォッチャーが増えている要因の 1 つが、この辺りでは珍しいミコアイサです（写真 1）。2023 年の冬にオス 1 羽がお堀に飛来したのですが、2024 年にはオス・メスがお堀に飛来し長く滞在しました。パンダのような容姿が間近に見られ双眼鏡が無くても観察できるので、地元紙にもとり上げられ多くのバーダーでにぎわいました。今年の冬も飛来するでしょうか。

城址公園のお堀では、ユリカモメ、キンクロハジロ、



図 1 小田原城址公園の位置と景観

ヒドリガモ、マガモ、カルガモ、コガモ、ハシビロガモ、オオバン、カイツブリ、アオサギ、カウナなどの水辺の野鳥が観察できます。特にユリカモメはお堀とそばにある櫓^{やぐら}を行き来しているの、成鳥と幼鳥の違いなどが間近でじっくり観察できます。

また、お堀の常連のカワセミは一年中見ることができます。お堀に蓮の花が咲く 7 月頃は花やつぼみに止まるカワセミを見ることができるのも人気です。

お堀の周囲にあるマツではアオサギが繁殖しています。巣材を運んで飛ぶ姿や子育てをしている様子などが観察できます。

お堀を抜けて報徳神社に行くとカラ類の混群やアカハラ、イカルなどが観察でき、運が良いとルリビタキ、ビンズイなども見ることができます。今年 2 月に行った神奈川県支部の探鳥会では公園全体で 33 種を観察しました。

小田原城址公園は、人と野鳥との距離が近いだけでなくアクセスも良いため、野鳥を見るにはおすすめの場所です。



写真 1 ミコアイサ

都市公園おすすめ探鳥地②：富岩運河環水公園バードサンクチュアリ（富山県）

公益財団法人日本鳥類保護連盟 富山県支部 湯浅淑子 文・写真

富岩運河環水公園は富山駅北口から徒歩 10 分の所にある都市型公園です（図 1）。富山の自然の美しさと富岩運河の歴史を残した約 10ha の広大な面積の水と緑の美しい公園で、「街に近い水辺空間を人と鳥が共存でき、ふれあいの場所にしたい」との思いから、人工島（あいの島）・バードサンクチュアリが整備され、野鳥観察舎も設けられました。

●富岩運河環水公園の特徴

富山県は急流河川が多く、富山市中心部を流れる神通川の治水対策や都市計画により昭和 10 年に富岩運河が新設され、水運による一大工業地帯を形成しました。戦後物流は陸運中心に代わり、運河としての役目を終えた後に整備されたのが富岩運河環水公園です。船溜まりは環水公園に、運河は富山湾（岩瀬港）までの富岩運河水上ラインとして観光クルーズ船が運航されています。公園のシンボル天門橋からは富山市の街越しに立山連峰が遠望でき、世界一美しいと言われる「スターバックスコーヒー」も人気です。

●観察できる野鳥の特徴

水辺環境が豊かな公園なのでたくさんの水鳥が観察できます。冬期にはヒドリガモやコガモなどのカモ類を中心に、オオバン、カイツブリなど多くの水



図 1 富岩運河環水公園の位置と景観

鳥でにぎわいます（写真 1）。富山湾にも比較的近いので、ミコアイサやキンクロハジロ、カモメ類も飛来し、運よくコハクチョウやシマアジ、アメリカコガモ、アメリカヒドリを観察したこともあります。またツグミ、シメ、ベニマシコなどの冬鳥にも出会いました。市街中心地にある緑地ということもあり、春と秋の渡りのシーズンになると渡り鳥の中継地としてオオヨシキリ、キビタキ、カッコウなどの夏鳥、タシギなどの旅鳥も立ち寄ります。

●観察の記録

富山県支部では、2007 年 4 月より毎月月例探鳥会を実施して、観察記録を支部の機関紙「らいちょう」に掲載しています。現在までに水鳥はカモやシギ類など 38 種、陸鳥は留鳥も含め 72 種が観察されました。カイツブリやカルガモの子育ては微笑ましく、ときにはカワセミがやってきてカメラマンの目を釘付けにしています。

環水公園では、地元や各種団体が継続的に探鳥会を開催していますが、確認できる野鳥の数は近年減少傾向になってきました。今後も人と鳥が共存できる環境をぜひ残したいと思います。



写真 1 カモ類で賑わう環水公園

都市公園おすすめ探鳥地③：京都御苑

公益財団法人日本鳥類保護連盟 京都支部幹事 山副茂彦 文・写真

●京都御苑とは

京都御苑は、千年の歴史と四季折々の豊かな自然に囲まれた都市緑地です（図1）。京都盆地の中心に位置し、西側は烏丸通り（市営地下鉄烏丸線）、東側には寺町通り、北側は今出川通り、南側は丸太町通りに面しています。

戦後、広く国民に開放され、訪れる人々のために休憩所や児童公園、運動施設などが苑内に新たに整備されました。現在では、京都御所・京都大宮・京都仙洞御所・京都迎賓館を含む緑豊かな約100haの広大な公園として、国内外の観光客や市民の憩いの場として広く親しまれています。苑内には、明治2年までは宮家や公家屋敷が軒を連ねていましたが、現在も旧公家屋敷や遺構が点在し、ウメやサクラ、紅葉など四季の彩りを楽しめます。また各所に樹齢100年を超えるケヤキ、イチチョウ、マツがそびえ、歴史と自然の重みを感じさせます。

アクセスは市営地下鉄烏丸線の今出川駅または丸太町駅からが便利です。苑内には有料駐車場があります。

●苑内「ながら探鳥会」

京都支部では創部以来、定例探鳥会「古都を偲びながら探鳥会」を京都御苑で開催しています。ポピュラーなコースは、九条池→鷹司邸跡→コオロギの里→母と子の森→バードバス→近衛邸跡→白雲神社→



図1 京都御苑と周辺マップ

宗像神社へと巡る約4kmルートです。途中にあるバードバス付近は、苑内に生息する野鳥が入れ替わりやってくるので、観察の人気スポットとなっています。

春から夏にかけてはウメ、サクラの花見とともに夏鳥の渡りが楽しめます。珍しい鳥としてはキビタキやサンコウチョウ、アオバズク（写真1）の姿が見られることがあります。晩秋から初冬には、ケヤキやイチチョウ、カエデの黄葉が素晴らしく、冬には時折雪化粧します。この時期の苑内は静かで、ツグミ、シロハラ、トラツグミ、ビンズイなどが地面に下りてきます。運が良ければイカルの大群に出会うこともあります。

一年を通じてカラス・カワセミ・キジバト・コゲラ・スズメ・トビ・ヒヨドリ・メジロ・カラ類などの留鳥も観察できます。御苑の東側を北から南に向けて鴨川の清流が流れています。アオサギは鴨川を餌場にし、苑内で繁殖しています。時折高い所からアオバトの声も聞こえてきます。

市街地の中心にありながら、四季を通じて豊かな自然に出会える京都御苑。京の風情とあわせてバードウォッチングも楽しんでみてはいかがでしょうか？ よろしおすえ～。おこしやす。



写真1 アオバズク

都市公園おすすめ探鳥地④：尾関山公園（広島県）

公益財団法人日本鳥類保護連盟 広島県支部長 漆谷光名 文・写真

●尾関山公園の特徴

尾関山公園は広島県三次市にある都市公園で、公園の山頂展望台からは、三次の市街地が一望できます（図1）。天文台跡や周囲に広がる6つの広場を中心に、春は桜（約540本）秋は紅葉、冬はシラカシと雪景色のコラボを見学する市民や観光客が訪れます。旧JR三江線を使ったレールバイクは、夏にはトンネルを走る人気スポットの一つです。三次藩初代藩主浅野長治（1614～1675）三女の阿久里姫（瑤泉院）の石像と、中村憲吉（1889～1924 三次市布野町）の歌碑「この山の桜に向かひ流れくる、川ひろくして水のひかるる」は、広島県北部の歴史と景観を静かに伝えています。

●観察できる野鳥

1996年初冬、日本鳥類保護連盟広島県支部三次分会の児玉重良事務局長に誘われて園内の鳥類観察を始めました。第1回はスズメ、ヒヨドリ、トビ、キジバト、カワラヒワ、エナガ、ツグミ、ハシボソガラスを記録しました。その後観察を繰り返していく内に数は増えていき、四季を通して約80種を確認しました。公園近くの愛鳥家で故・清原正人氏の一言、「尾関山はまるで柵のない鳥かごです。」が蘇ってきます。春にはメジロ、ヒヨドリが桜の蜜に集まり、夏になるとシジュウカラのヒナが枝に止まって親から餌をもら

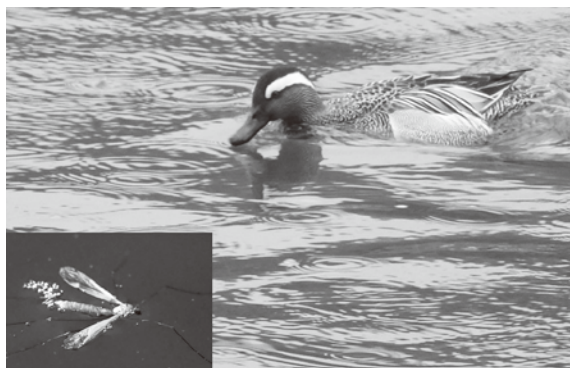


写真1 上流から流れて来るカゲロウをくちばしの先端で摘まむシマアジのオス



図1 尾関山公園の位置と全景

い、秋になると南へ渡る途中のエゾビタキが水を浴び、ツツドリが毛虫をついばみます。冬にはアオバトがシラカシの大樹の下でドングリを頬張ります。ムクノキやカエデの種は長持ちするのでシメやアトリは一冬中食べることができます。「いつ頃（季節）」には「何（種）」が見られるという関係性があることを氏は伝えたかったのではないかと思います。木の実が四季を通して豊富にあることで、この公園が鳥たちをひきつけていることに気づきました。

●観察の記録

公園の横を江の川が流れています。カモが北へもどっていく3月から4月、一斉に上流へ向けてくちばしを下に向けながら先端で水面を突くしぐさが見られます。この不可解な行動も食べるエサとの関係で納得できました。排水機場から流れてきた温かい水にカゲロウが落ちて水に浮き、下流へ流れていく姿を観察しました。シマアジ（写真1）など水面採餌カモが長旅のエネルギー源として動物質の高カロリーのエサを栄養源にしていると考えられます。

30年間公園に通う中で、鳥と他の生きものが密接につながっていることをあらためてわかりました。生きもののバンザイ！

都市公園と巣箱プログラム

公益財団法人日本鳥類保護連盟 普及啓発室 文・写真

都市公園は、深山や里山のような自然豊かな場所と比べて生きものが少ないと多くの人は思っていると思います。しかし実際は都市の中にも多くの生きものが暮らしています。都市公園は開けた場所が多いため野鳥を観察しやすく、カワセミやエナガのような人気の鳥も見られます。人をあまり恐れない種も多いため、子どもや野鳥観察を始めたばかりの方にとっては、むしろ都市公園の方が自然観察を楽しむやすい場所といえます。

連盟の普及啓発事業の一環として、毎年新宿御苑や所沢航空記念公園などの都市公園で親子を対象にした巣箱づくりプログラムを開催しています（写真1）。子どもたちが手を動かしながら身近な自然に触れる機会として、毎年抽選になるほど好評を得ています。

●新宿御苑と巣箱プログラム

新宿御苑は広さ約 58ha、周囲は約 3.5 km に及ぶ大規模な庭園です。苑内には約 1 万本の樹木が植えられており、四季を通じて国内外から多くの人々が訪れます。サクラやカエデの紅葉が見ごろの時期は、開園前から行列ができるほどの人気の公園です。都内の野鳥観察スポットとしても知られており、森の中ではシジュウカラやエナガ、水辺ではオシドリや

カワセミなど人気の鳥が見られます。さらに、夏はキビタキやオオルリ、冬はキクイタダキやトラツグミなど、大都会で思いがけない野鳥に出会えるのも魅力です。そのため、双眼鏡や望遠レンズを手にしたカメラマンや観察者の姿も見かけます。

巣箱プログラムは、苑内の北西部にある「母と子の森」を拠点に、「森に架けた巣箱を調べよう！」と「巣箱を作って森にかけよう！」の2回に分けて実施しています。母と子の森は、コナラやミズキなど里山を代表する広葉樹が茂るエリアで、散策や自然観察の場として多くの人に親しまれています。「森に架けた巣箱を調べよう！」では前年に設置した巣箱を回収し利用状況を調べます。「巣箱を作って森にかけよう！」では親子が協力して巣箱を組み立て、鳥が利用しそうな場所を選んで設置します。いずれか一方のみの参加も可能で、家族の予定や子どもの興味に合わせて気軽に体験できるのが特徴です。

毎回 10 組以上の親子が参加し、「巣箱を作って森にかけよう！」では 1 組につき 1 個ずつ巣箱を作るため、毎年 10 個以上の巣箱を新たにかけしています。利用する鳥はシジュウカラとヤマガラで、近年はヤマガラの繁殖例が増えています。設置したすべての巣箱が使われるわけではないものの、毎年 2～4 個

で営巣が確認されます。ちなみに園内にはスズメも生息していますが、意外なことに巣箱を利用しません。

「森に架けた巣箱を調べよう！」では、取り外した巣箱を開ける瞬間はドキドキワクワク。期待通り巣材が入っていることもありますが、クモやゴキブリ、ヤモリが多数入っていて子どもたちが雄叫び!? 悲鳴!? をあげるのも恒例です。大都会の真ん中に位置する公園にも野鳥が繁殖し、ヤモリまでもが暮らしていることを知るのは、子どもだけではなく大人たちも目から鱗。



写真1 新宿御苑（左）と所沢航空記念公園（右）での巣箱プログラムを楽しむ子どもたち



写真2 巣箱へ餌を運ぶシジュウカラ（新宿御苑）

都会にもいろんな生きものがいることを実感します。

4～7月に母と子の森を訪れると、シジュウカラやヤマガラが巣箱へ餌を運ぶ様子を見ることができます（写真2）。来園者の中にはその光景を写真や動画に収めて見せてくれる方もいます。

●所沢航空記念公園と巣箱プログラム

所沢航空記念公園は、埼玉県所沢市にある広さ約50haの都市公園です。航空発祥記念館やテニスコート、野外ステージ、ドッグランなどの施設があり、家族連れの憩いの場として親しまれています。雑木林や広々とした芝生広場など変化に富んだ環境があるので、野鳥観察スポットとしても人気の公園です。園内ではコゲラやヒヨドリ、冬にはシメやアトリ、アオゲラなどの姿を見ることができます。

所沢航空記念公園でも新宿御苑と同様、親子向けの巣箱プログラムを開催しています。園内の木々に設置された巣箱では、主にシジュウカラが繁殖しますが、アオゲラが巣箱の入口を広げた事例や、ドクッランの施設があるため巣材に犬の毛がふんだんに利用された例もあり、興味はつきません（写真3）。

所沢航空記念公園のプログラムの特徴は、「巣箱を作る」と「利用状況を調べる」2つのイベントに同じ親子が参加するところです。子どもたちは巣箱を作り、森の木にかけてもらい、約10ヶ月後にその巣箱の中身を調べます。その過程で、鳥たちが実際に巣箱を使ったのかどうかを自分の目で確かめることになります。新宿御苑のようにどちらか一方のみの参加はできませ



写真3 巣材に犬の毛がふんだんに使われていた巣（所沢航空記念公園）

んが、その分「作った巣箱がどうなったか」を最後まで見届けられる、より継続的で学びの深い体験プログラムになっています。

また、巣箱作り以外にも、野鳥をテーマにした工作体験（野鳥型マグネットの色塗り、鳥の巣づくり体験、羽根の色塗りなど）を取り入れ、子どもたちも保護者も楽しみながら鳥の世界を学べる工夫を凝らしています。

●都市に広がる“鳥と人の共生”を紡ぐ未来へ

自ら作った巣箱で鳥が子育てをしたことを知った子どもたちは、自然への親しみと保護の心を育みます。もしミイラ化したヒナの死骸があれば、自然界の厳しさと命の尊さを実感します。保護者からも「普段の生活では気づかない鳥の存在に目が向くようになった」「親子で共通の学びの時間が持てた」といった声が寄せられています。

新宿御苑や所沢航空記念公園での取り組みは親子イベントにとどまりません。巣箱の利用状況の変化を調べることは、公園の生物相を把握する上での貴重なデータとなり、公園の運営にも活かされます。また、こうした体験から自然保護への関心を育んだ子どもたちが、将来の環境リーダーとなることは、こういった活動を長く続ける当連盟の願いでもあります。

今年度の新宿御苑の巣箱プログラムの参加者募集中です。詳しくは新宿御苑のサイトからご確認ください。

https://fng.or.jp/shinjuku/2025/10/01/20251001_01/



野鳥と詠む俳句 結果発表

7月1日から9月17日まで募集した「野鳥を詠む俳句」には、285名の方から合計770句の投句がありました。(公社)日本伝統俳句協会の田丸千種先生と日本鳥類保護連盟が選考しました最優秀賞1点と優秀賞10点を発表いたします。

最優秀賞

大の字で仰ぐ大空雨燕

國本秀山

【評】悠然と空を飛ぶ雨燕。作者も空に身をゆだね、雨燕と一体化しているようです。

優秀賞

小鳥来る耳豊かなる石仏

野口緑風

【評】野仏の「耳」に着目。季語が野辺の明るさを感じさせます。

鳴きやみて夜鷹の気配いよ濃く 大川すまき

【評】見えにくい夜鷹を「気配」で感じている繊細さが光ります。

幹叩く音溶けゆきて夏の霧

川辺 留不

【評】啄木鳥の音が霧に巻かれてうすれてゆく。夏の霧らしさが出ています。

福良雀枝に群がるオカメ顔

うづき

【評】「オカメ顔」が秀逸。ふくら雀の可愛さ倍増です。

初燕ディーゼル車来る木の駅舎

昭彦

【評】今もディーゼル車が走る駅舎。そんな旅先(?)で初燕に遭遇した喜びが伝わります。

筒鳥のまた遠くなる修験道

ひかる

【評】聞こえたかと思うとまた遠ざかる。「修験道」が山の深さを物語ります。

摩天楼フクロウ潜むビル灯り

白川 譽

【評】現代の情景。無機質な都会に棲むフクロウが詠まれ、詩的な一句となっています。

オオルリの止まりて梢輝きぬ

遊泉

【評】瑠璃色鮮やかなオオルリ。枝ごと光を放つ姿が見えるようです。

愛鳥の週や有給つかい切

鳥リンガル

【評】愛鳥家ならではの。きっと惜しくはない有給休暇の使い方ですね。

餌台に見知らぬ鳥や冬日和

羽住玄冬

【評】よく晴れた朝にいつもと違う鳥が来る。「冬日和」が効いています。

講評：(公社)日本伝統俳句協会 田丸千種先生

残念ながら11点に選ばれなかった句の中にも野鳥を楽しむ情景が浮かび上がる素晴らしい俳句がありました！ たくさんのご応募ありがとうございました。



トラツグミ

公益財団法人 日本鳥類保護連盟 専務理事 中島慶二 文・写真

●ぬ系の声

高校山岳部の山行で奥多摩の山（確か川苔山だ
さんこう かわのりやま
と思います）に泊まりで登りに行った時のことで
すからもう 50 年も前のことです。テント場に着い
たら暗くなる前に急いでテントを張り、夕食の準備
を済ませ、食事が終わる頃にはあたりは暗くなっ
ています。あとはキジを撃って（本当にキジを撃つわ
けではもちろんありません。大きいほうのトイレの
ことを示す登山者のスラングです）寝るだけ、とテ
ントで休んでいました。すると、森の奥から「ひい
———」と甲高く、長くつづく、最後はすっと
かんだか
消え入るような声が聞こえてきます。少し間をおい
て、今度は「ひょ———」と、先ほどより少し低
い声で、同じように長く、最後は消え入るような声
が聞こえます。

そう、トラツグミの声です（写真 1・QR コード）。
私は当時すでにトラツグミが夜に不気味な声で鳴く
ことや、古い時代にはトラツグミの声が伝説上の動
物である「ぬ系＝鵄」（写真 2）が出す声と思われ
ていたことなどを知識としては知っていたので、あ
あこれが噂のぬ系の声なんだ、と感慨深くその声を



写真 1 トラツグミと鳴き声（QRコード）

楽しんでいました。確かに、夜の暗い森にしみわた
るように響くその声は、鳥の声らしくないし、トラ
ツグミの声だと知らなければ、なんだか気味が悪い
と思うのは無理ありません。鳥の声としては唯一
無二のオリジナリティーといえるでしょう。

●虎斑はよくできた保護色

日本のツグミ類の中では最も大きい部類で、全長
25 cm 弱のツグミやシロハラと比べると、トラツグ
ミは 30 cm 弱と、ふたまわりほど大きく感じますし、
動きもあまりシャープではなく、重たそうに見えま
す。地面をウォーキングで歩いていることが多く、
ホッピングをしているのを見たことはありません。
トラツグミの名前はもちろん姿から来ています。羽衣
が全体に黄色と黒のまだら模様（虎斑模様）になっ
ていますので、トラのような姿のツグミということ
でしょう（写真 3）。背中側は暗めのまだら、腹側は黄
色より白に近い
地に黒の三日月
斑が並んでいる
感じですが、森の
中で、特に地面
にいるときには、
とても見つけに
くくなります。
（写真 4）保護色
または擬態とい



写真 2 鵄（歌川国芳「木曾街道六十五次」
東京都立図書館蔵）

うべきなのでしょうね。剥製を冬の林の中に置いておくと、場所によっては2mくらいの近さまで近寄らないと見つけることができません。



写真3 トラツグミの羽衣（部分）

コノハズクのような茶色系統の羽衣であればいかにも保護色！という感じですが、地味な黄色と黒という、トラロープのような、むしろ目立つために使われそうな配色なのに、冬の里山林の地面では保護色になる、これも面白い現象ですね。

●どういう場所にいるのか

北海道では夏鳥、沖縄では冬鳥として、本州から九州までは通年見られます。夏の間は低山から山地帯の森林で繁殖をし、冬は低地の山すそにも降りてきます。夏に姿を観察するのはなかなか難しいですが、冬は出会える確率が高くなります。冬の間は丘陵地、里山に出現しますし、都市の中に位置する公園などでも、里山的な環境をもつ広い公園であれば見られる場合があります。トラツグミは林床の地面で採餌活動をします。ミミズが大好物で、ミミズと同じような場所にいる昆虫の幼虫やムカデなども食べる



写真4 里山の林床にまぎれる（横面、正面、背面）

ようです。冬の間、少し湿った環境でミミズがいそうなところを探すと、出会えるかもしれません。

●トラダンス

トラツグミを語るうえで外せないのが、採餌の時に見せる体をゆする動き、通称トラダンスです。大きくゆするときにも頭が微動だにしないので、視界を固定する能力がとても高い鳥の特性を見ることができます。

左右に体をゆするのですが、単に左右ではなく、正面から見ると山型にも見える動きです。もしくはただ小さく体を震えさせるときもあります。その違いは足で地面を踏みつける力の大きさで決まるようです。両足を交互にガシガシ踏みつけるときは体が左右に動き、両足を同時にトントンと踏むときは体は上下に少しだけ動いているように見えます。トラダンスの秘密は足の動きにあるようです。下にあるQRコードにアクセスすると、トラダンスの動画を見ることができます！

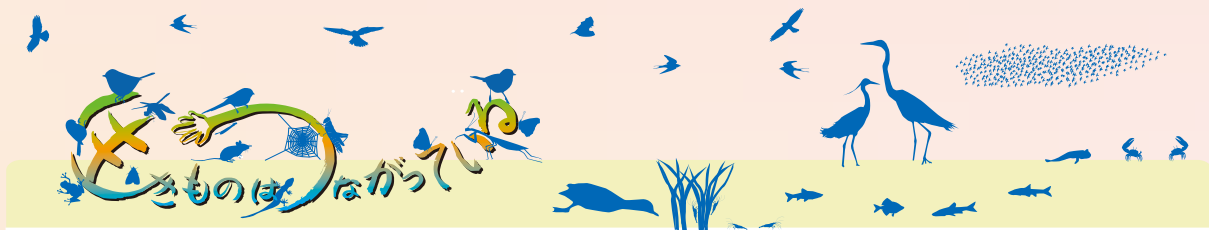
トラツグミは、地中にいるミミズがどこにいるのかを察知し、狙いを定めてくちばしでつつき引っ張り出します。トラダンスの動きは、地中にいるミミズや虫をおどかして、ミミズなどが動くときのかすかな音をキャッチして狙いを定めるためだろうと言われています。狙いを定める、つまり、虫の位置を正確に特定するための行動、というわけです。



トラツグミの採餌ダンス動画

●おまけ

奄美大島に留鳥として生息しているオオトラツグミは以前、トラツグミの亜種としての扱いでしたが、研究が進み、別種として独立を果たしました。種の新しい名前はミナミトラツグミ、オオトラツグミはこの種の亜種名として残っています。



ムカデを観察しよう

生きものライター 奥山風太郎 文・写真

ムカデと聞くと、「毒がある」「気持ち悪い」といったネガティブな印象を持つ人が多いかもしれません。しかし、その生態や性質を知ることによって恐怖心は薄れていき、むしろムカデの“良いところ”がきつと見えてくると思います。野外活動の際に少し注目してみてはいかがでしょうか。

●ムカデとはどういう生きものか

ムカデは節足動物の中でも「多足類」に分類され、「唇脚綱」に属します。このグループの最大の特徴は、「顎肢」と呼ばれる変形した脚を持っている点です。この顎肢はアゴのような役割を果たし、内部に毒腺を持つことで“毒牙”として機能します。ムカデはこれを獲物を捕獲する際の武器として活用しています。

すべてのムカデは肉食性で、主に自分より小さな節足動物を捕まえます。大型の種では、トカゲやカエル、小鳥のヒナを襲うこともあるほどです。なお、同じく多足類である「ヤスデ」は見た目が似ているため混同されがちですが、顎肢は持っておらず、す

べての種が落ち葉や菌類を食べる草食性という違いがあります。

世界では約 3,000 種、日本国内では 150 種前後のムカデが記録されています。ですが、この分野はまだ研究が十分とは言えず、実態はよくわかっていません。日本のムカデも未知のものが数多く存在し、実際の種数は少なくとも 200 種以上にはなると考えています。

日本で見られるムカデの多くは、体長数ミリ～3 cmほどのイシムカデ類や、ようじのように白っぽくて細長いジムカデ類です。いわゆる「典型的なムカデらしい姿」をしているのは、オオムカデ目に分類される一部の種のみで、その中でもトビズムカデ(写真1)とアオズムカデは特に大型です。体長 10cm を超えることもあり、毒量も多く、噛まれるとハチに刺されたような鋭い痛みを伴います。見つけても絶対に素手で触ってはいけません。また、オオムカデ目の仲間の“アカムカデ属”も全国的によく見かけるムカデですが、大きさは 5～6 cm 程度で毒量も少なく性質もおとなしいので危険は少ないですが、



写真1 トビズムカデ。人にとっては危険なトビズムカデですが、鳥に捕食されているのをよく観察する



写真2 イスズムカデ。観察では最もよく見られるイシムカデの仲間



写真3 アカムカデ。アカムカデの仲間も比較的良好に見つかる

素手では触らないようにした方が良いでしょう。その他のムカデについては、よほど無理につまんだりしない限りは、危険のない無害な生きものなので安全に観察することができます。

●ムカデの見つけ方と観察

ムカデの仲間は海岸から山地、市街地、森の奥深くなど、場所を問わず幅広い環境に分布しています。多くの種が乾燥や強い光を嫌うため、石や倒木、落ち葉の下などに身を潜めていることが多いです。探し方はシンプルで植木鉢の下や石や倒木をそっと裏返してみれば、かなりの確率で何かしらのムカデ類に出会えるでしょう（写真5、6）。イシムカデ類（写真2）の分類は難しい場合もありますが、アカムカデ類（写真3）は虫眼鏡があればある程度判別できます。ジムカデ類（写真4）は歩脚の数で種類を特定できることが多いため、写真を撮って記録を残しておく、あとで同定が可能な場合があります。

ムカデ類の分類や分布はまだ不明点が多く、一般



写真5 ムカデは素早いので、見つけたら落ち葉ごとわしづかみしてトレーなどに移すと観察しやすい



写真4 ゴシチムカデ。ジムカデの仲間。本種は歩脚が59対（稀に57対）

の人の観察記録や写真が新発見につながることもあります。身近な自然の中で、自分の観察が研究の一助になる可能性があるという点も、ムカデ観察の魅力のひとつです。

●ムカデと鳥の関係

ミミズやダンゴムシなど土壌に強く依存している生きものを土壌動物といいますが、土壌動物（節足類）の中ではムカデは頂点捕食者の一つであり、敵なしの存在と言えます。そんなムカデですが、鳥が天敵となりうることも多く、自宅近くでイソヒヨドリを観察しているとかなりの高頻度でムカデを捕まえている姿を目撃しますし、トラツグミやツグミがムカデを捕食しているシーンをしばしば目撃しますので、あまり取り沙汰されてはいないことかもしれませんが、一部の鳥にとってムカデは重要な食物のひとつなのかもしれません。



写真6 石をめくってムカデを探す様子

プロフィール

奥山風太郎（おくやま・ふうたろう）1977年東京都出身。10代前半より生きものにまつわる仕事に従事。世界各地で野生生物の姿を調査し、雑誌等で紹介してきた。著書は『ダンゴムシの本』（DU BOOKS）『おどろきダンゴムシ図鑑』（幻冬舎）『図鑑 日本のむかで』（太田出版）など。

羽根探偵の 謎解きファイル

エピソード5

さがみ
郷土マナツ

登場人物

羽根田 翔：探偵業をしているがなぜか羽根について異常に詳しく周囲からは羽根探偵と呼ばれている。基本的
に人見知りで不愛想だが羽根を見ると食いついてくる。

鳥居 明子：自然や生きものが好きな高校生。好奇心旺盛で明るい性格。

神谷 信二：博物館の生きもの担当の学芸員。生きものの知識が豊富で人当たりがいい。

お隣さん：明子の家のお隣に住む初老の男性。定年退職後は庭いじりが趣味。

明子が学校から帰ってくると、ちょうどお隣さん^{となり}がお庭に出て何か作業をしている様子だった。いつもは活き活きと庭いじりをしているのだが、その日はなぜか浮かない表情だった…。

明子：「こんにちは、何の作業をされているんですか？」

お隣：「あっ、おかえりなさい！ いや実はね、池のメダカが減っていくんだよ。それで今、買ってきたメダカを池に足しているところなんだけど、なんで減るのか分からなくてね…。」

明子：「メダカが勝手に減るんですか？ 池から飛び出しちゃったんでしょうか。」

お隣：「いや、飛び出したような形跡^{けいせき}はないなあ。誰かが盗^{ぬす}んでいる気がするんだけど、こんな普通のメダカを盗むなんて変わり者だし気味が悪いよな。」

明子：「ちょっと見せてもらってもいいですか？」

そう言うと明子は門扉^{もんび}を開けて庭に入った。お隣さんが言うように小さな池には魚が飛び出したような痕跡^{こんせき}はなかったが、羽根が数枚落ちているのを発見した(写真1)。

明子：「あっ、羽根が落ちてますね！ この尾羽は白黒だ…。そう言えばこの前、河原でハクセキレイって白黒の鳥を見かけたんです。水辺にいるのをよく見かけるし、もしかするとその鳥がメダカを食べにきてるのかも！？ う～ん…。そうだ！ ちょっと待っててください！」

そう言うと明子は家からある物を持ってきた。

お隣：「これは何だい？」

明子：「ふふふ、これは生きものが通ると自動で撮影^{さつえい}してくれるカメラなんです！ この前知り合いが使っているのを見て、欲しくなって貯めてたお小遣^{こづかい}いで買っちゃったんですよ。これを池が見えるところに付ければ犯人が分かるかも！」

お隣：「へー、今はいろんなカメラがあるんだねえ。じゃああそこの木に括り^{くくり}付けてみようか。」

数日後…

明子：「その後はどうですか？」

お隣：「やっぱり相変わらずだよ、あのカメラに何か映っていればいいけど。」

明子とお隣さんがカメラの画像をその場で確認してみると…

明子：「あれ、タ、タヌキ？ 池からメダカをつかみ取って食べてる！」



写真1 明子が拾った羽根

明子はカメラを持って博物館へと向かった。

明子：「神谷さん、タヌキがメダカを食べてる映像が撮れたんですよ！
しかもうちの家の隣で！ こんな器用につかんで食べてるんですよ！」

神谷：「おや、これはアライグマですね！ ほら、尻尾が縞模様でしょう。
外来種としてこの辺りでも目撃情報が出ているんですが、農作物を荒らし
たり人に危害を加えたりと問題になっているんですよ。見た目が可愛いから
と言ってむやみに近づいてはいけませんよ。」

明子：「えっ、アライグマがこの辺りにいるんですか！ 知りませんでした。
しかも人に危害を加えることもあるんですよ、気を付けます…。あ、そう
そう！ この池にシジュウカラが水浴びに来てる映像も撮れてたんですよ。
ほら、羽根も何枚か拾いました。白黒の羽根があったので最初はハク
セキレイが犯人かと思ったのですが、シジュウカラの尾羽にも白黒の部分
があるって映像を見て気づきました！」

神谷：「おっ、コレクションが着々と増えているようですね。さすが羽根
田さんの弟子だ。ね、羽根田さん！」

それを聞いて羽根田が奥の資料室から顔をのぞかせた。

羽根田：「神谷さん、せっかく隠れてたのに呼ばないでください。」

神谷：「まあそう言わずに、後進の育成も我々の務めではありませんか。」

羽根田：「それは神谷さんにお任せします。私にはそんな義務も義理もあ
りませんから。」

明子：「師匠一、来てたんですね！ シジュウカラの風切羽と尾羽を拾っ
たんですよ、見てください！ この前教えてもらったので羽根の部位が分
かりました！（エピソード4参照）」

羽根田：「…君は本当にボンコツだな。ハクセキレイとシジュウカラを間
違えるなんて。それにシジュウカラじゃない羽根も混じっているじゃない
か。」

明子：「え、どれも同じにしか見えませんよ。」

羽根田：「は一、これだから繊細さに欠ける人間は嫌なんだよ。よく見た
まえ、この風切羽の外側の先端と内側は白いけど、こっちの羽根はそうじ
ゃないだろ（写真2）。白い方がシジュウカラで、そうじゃない方は、そうだ
なあ、大きさとこのあたりにいる鳥として考えるとヤマガラの羽根だ。」

明子：「はっ、確かに違いますね！」

羽根田：「あと尾羽も違う。こうして色紙を後ろにやると透け感が異なっ
てるだろう。透けてない方がシジュウカラの羽根だ（写真3）。」

明子：「なるほどー、こんな細かい違いで種類を判別するんですよ！」

羽根田：「細かいもんか、これくらい普通確認するだろう！ まあ君はシジュウカラをハクセキレイと間違えるし、タ
ヌキとアライグマの違いも分からないみたいだから無理もないな。」

神谷：「うんうん、二人ともとってもいいコンビですね！ 見ていて微笑ましいです。」

羽根田：「は、何を言ってるんですか！？」

明子：「うんうん。こんなに親切に教えてくれるなんて弟子想いですよね。」

羽根田：「私は羽根に興味があるだけだ！！弟子など取らん！」



写真2 シジュウカラとヤマガラの風切羽

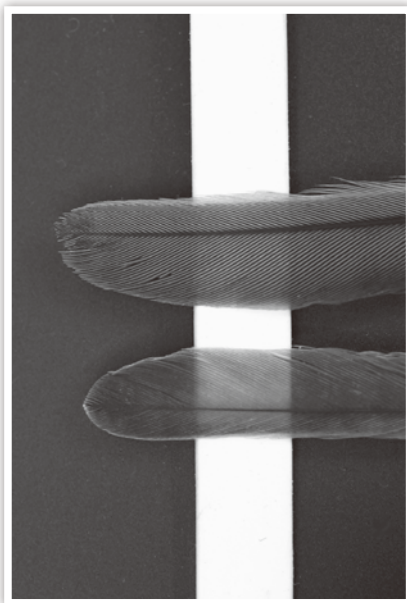


写真3 シジュウカラとヤマガラの尾羽

to be continued

参考・引用文献

○藤井 幹「羽根識別マニュアル増補改訂版」文一総合出版

9月12日から15日まで、北海道の札幌市で開催された日本鳥学会2025年度札幌大会に出席し、活動で得られた知見について発表してきました。

●「巣箱で営巣したフクロウの餌内容について」 (写真1)



写真1 巣箱で営巣したフクロウの餌内容についてのポスター発表

日本鳥類保護連盟とサントリーホールディングス株式会社に架設したフクロウ用巣箱のうち、営巣した巣箱から巣材を回収して餌の残滓を抽出。その結果、何をどれくらい食べていたかを調べました。東は栃木県、西は鳥取県にかけて広く架設してありますが、今回は営巣した栃木県から大阪府までの巣箱27箇所のデータをまとめたものです。

これまで雛への給餌ではネズミが多く、鳥類の割合は低いという認識の報告が多くみられました。特にカエルについてはあまり報告されていません。しかし、今回の調査で、雛には鳥類やカエル、ムカデなど多様な動物を与えていることが分かりました。特に降水量が多い年は、カエルが多く与えられている傾向も見えてきたところです。

これまで森の評価をするときに、フクロウやオオタカなど指標となる種が生息しているかどうかを判断基準としてきましたが、餌動物の内容やどの餌動物に依存しているかなど、その変化、動向を見ていくことで、森の変化をとらえることができる指標になりうるのではないかと考えています。

●「サシバは同じ繁殖地と越冬地を利用するのか？」 「なぜGPS装着サシバにメスが多い？ 性比偏りに関する仮説立案と検証の試み」

サシバの渡りルート全容解明プロジェクトに係る

発表です。この学会では2テーマを発表しました。渡りルートと繁殖地、越冬地に関するものを奄美野鳥の会の鳥飼久裕さんが口頭発表で、奄美大島のサシバの性比に関する発表をアジア猛禽類ネットワークの内藤アンネグレート素さんがポスター発表しました(写真2、3)。

鳥飼さんの発表では、渡りルートの紹介とともに、繁殖地と越冬地が毎年同じ場所であることや移動開始日のばらつき、春と秋で移動にける日数が異なることなどを発表しました。今後もこれらのデータは積み重なり、より貴重な情報になっていくことが期待されます。

性比に関しては、このプロジェクトで捕獲した個体がほとんどメスだったことから、奄美大島はメスが多いのではないかと予想をしていましたが、傷病で運び込まれる個体や交通事故にあって収容される個体は性比に差がないということが分かり、なぜこのような偏りが出たのかということを検証したものです。結果的には断定できるほどの根拠は示せないという結論ですが、罾を仕掛ける場所が餌のとりやすい場所で体の大きなメスが占有しているとか、オスのほうが警戒心が強いなど、色々な視点で検証し、とても興味深い内容でした。



写真2 サシバの渡りに関する口頭発表

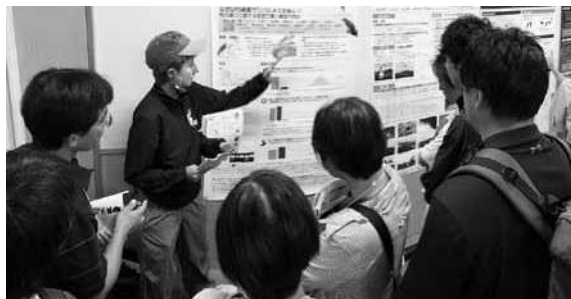


写真3 奄美大島のサシバの性比に関するポスター発表

子ども鳥博士参加者募集!

日本鳥類保護連盟では、2001年の第25回を最後に途絶えていた子ども向け自然体験プログラム「子ども鳥博士」を、2026年2月に再開します。

「子ども鳥博士」は、野鳥や自然の魅力を楽しく学びながら、小学生が「鳥博士」として認証を受けられるイベントです。過去には多くの子どもたちが参加し、野鳥観察を通じて環境への関心を深めてきました。今回の再開をきっかけに、次世代の自然保護を担う子どもたちを育てていきたいと考えています。

再開第1回目となる今回は、午前中にフィールドでの自然観察を行い、午後は室内で野鳥に関するレクチャーや交流の時間を設けます。観察体験と学びを通して、楽しみながら野鳥の世界に親しむことができます。

これを契機に、子どもたちが少しずつ「鳥博士」としてステップアップ出来る仕組みを作っていく予定です。



【開催概要】

- 日時：2026年2月7日（土）9:00～15:00
- 集合：9:00 小田原駅 JR 改札前（提灯下）
- 会場：小田原城址公園（野外）、おだわら市民交流センター UMECO（室内）
- 対象：小学生 20 名（応募多数の場合は抽選）
※1 世帯 3 児童まで参加可能
- 申込み：12月25日（木）締め切り（1月9日までに結果をお知らせ）
- 参加費：500 円／人（保険料含む）※ 複数の場合は 500 円 × 人数となります
- 持ち物：筆記用具、昼食、飲み物、タオル、歩きやすい服装、雨具、双眼鏡（任意）
- 雨天実施（室内プログラム）

主催：公益財団法人 日本鳥類保護連盟
協力：神奈川支部、全国愛鳥教育研究会

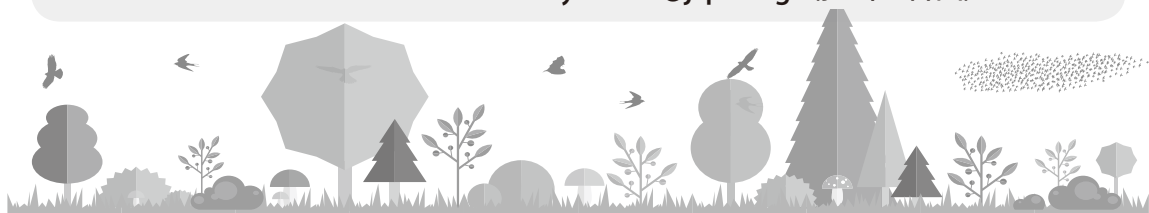
【応募方法】

Google フォームよりお申し込みください。 <https://forms.gle/jcTDAPCJq9Ekx2A>

【お問合せ】

公益財団法人日本鳥類保護連盟 子ども鳥博士係

Tel：03-5378-5691 E-mail：yoshida@jspb.org（担当：吉田）



連盟だより

寄付をしてくださった方

下記の皆様から寄付をいただきました。

心よりお礼申し上げます。

<一般寄付>

野鳥生活、山下公寿、中村桂子、HARVEY PAUL ANTHON
(8月1日～9月30日、4名、敬称略・順不同)

新会員のみなさん

どうぞよろしくお願ひします。

<個人正会員>

竹田保則、蔵川早苗、網谷文香、丹羽麻奈美、
宮内紗弥香
(8月1日～9月30日、5名、敬称略・順不同)

使用済み切手・カード類を送ってくださった方

石井礼子、佐々木均、安納洋子、笹野政美、田中和美、
萩原、森 信雄、長谷川真一、
川崎市消防職員協議会、福岡県環境部自然環境課、山口

県下関農林事務所 森林部、東京都環境局自然環境部計
画課、公益財団法人 日本動物愛護協会、サントリーホー
ルディングス株式会社、環境省北海道地方環境事務所野
生生物課

(8月1日～9月30日、16名、敬称略・順不同)

「日本の野鳥カレンダー2026」取扱い店

連盟の「日本の野鳥カレンダー 2026」は、下記のお店
で購入できます。

●丸善 (3店舗)

丸の内本店 (東京都千代田区)
仙台アエル店 (宮城県仙台市)
岡山シンフォニービル店 (岡山県岡山市)

●温根内ビジターセンター (北海道鶴居村)

TEL:0154-65-2323

●COO (東京都府中市)

TEL:042-306-8438

●ホビーズワールド (東京都千代田区)

TEL:03-3253-3077

●米子水鳥公園 (鳥取県米子市)

TEL:0859-24-6139

ご購入についての問合せ：(公財) 日本鳥類保護連盟
担当：岡安 TEL:03-5378-5691 FAX:03-5378-5693
E-mail:okayasu@jspb.org

information インフォメーション

埼玉 関東野鳥写真倶楽部写真展

●美しい野鳥たち

内容：関東野鳥写真倶楽部会員が日本
国内各地で撮影した野鳥写真と、野
鳥をモチーフにしたハンドメイド作品
を展示します。

日時：12月9日(火)～15日(月)

開場：9:00～16:00

(初日13:00から最終日15:00まで)

会場：埼玉県県民活動総合センター

1階展示コーナー

(埼玉県北足立郡伊奈町内宿台6丁目
26)

入場料：無料

主催：関東野鳥写真倶楽部

後援：公益財団法人 日本鳥類保護連盟

問合せ：関東野鳥写真倶楽部・三島明美
TEL: 090-9676-4911

東京 鳥工房バードカービング展

●翔け木彫りの野鳥たち

会場：板橋区立 成増アートギャラリー A
(板橋区成増3-13-1 アリエスビル
3階)

会期：11月11日(火)～16日(日)

開館時間：10:00～16:30

(初日13:00から最終日15:00まで)

入場料：無料

照会先：鳥工房・星野利香

TEL: 090-9676-4911

福岡 第37回和白干潟まつり

●和白干潟の自然を楽しもう！

～ラムサール条約登録をめざして！～

内容：バードウォッチング、干潟の生物
観察、自然あそび、植物観察、紙し
ばい、コンサート、干潟の掃除、写真
展、和白干潟の研究や活動のパネル
展示、ラムサール宣言など

日時：11月23日(日)11:00～15:00

※小雨決行、雨天中止

会場：和白干潟・海の広場

(福岡市東区和白4丁目海岸)

交通：JR 香椎線和白駅下車徒歩10分、

西鉄貝塚線唐原駅下車徒歩5分、西
鉄バス白浜バス停から徒歩5分

※駐車場がありませんので、公共交
通機関をご利用ください。

参加費：無料

主催：和白干潟まつり実行委員会

(和白干潟を守る会、グリーンコープ
生協ふくおか福岡東支部)

問合せ：TEL:090-9651-8489 (松尾)

インフォメーションの情報募集

自然観察会・シンポジウム・集
会・写真展など、情報をお寄せ
ください。個人宅が連絡先の場
合、機関誌等への掲載は可能か
どうかもお知らせください。
FAX、郵便、e-mailのいずれか
でお願いします。1・2月号は12
月1日(月)まで。

E-mail: editor@jspb.org

日本の野鳥カレンダー2027写真募集

「日本の野鳥カレンダー2027」に掲載する野鳥の写真を下記の要領で募集します。

【応募条件】 日本国内で撮影した野鳥で、未発表の写真に限りです。ペット・家禽の写真は不可です。生息環境に手を加えたり、野鳥を意図的に呼び寄せたり、卵・ヒナ・営巣中の写真など、野鳥の繁殖や生息環境に悪影響を与えたと思われる写真も不可です。

撮影時、野鳥や生息環境、周りの人への配慮が大切です。マナーを守って撮影をお願い致します。

【募集期間】 2026年（令和8年）2月1日（日）～2026年（令和8年）4月30日（木）消印有効

【選考数】 表紙および1月～12月の13点を採用致します。

※採用者には、カレンダー5部を進呈し、作品使用料として、20,000円をお支払い致します。なお、カレンダーご購入の場合、【作者割引】を適用致します。

1月～12月はヨコ位置の写真を採用しますが、表紙はタテ位置を採用する場合があります。

群れ・複数種の作品や季節感のある生息環境を表現している作品をお待ちしております。



【写真の種類・応募方法・作品の返却について】

①フィルム撮影の場合

《規格》 35mm判以上のカラーズライド（ポジフィルム）

《応募方法》

(1) フィルムはマウントに入れ、マウント部分に撮影者氏名・種名・撮影年月日・撮影場所（都道府県市区町村）を直接ご記入ください。

(2) 応募点数に上限はありませんが、厳選してご応募ください。

《作品の返却について》

(1) 採用・不採用に関わらず、すべて返却致します。
(2) 不採用の場合は、2026年7月中旬頃までに返却する予定です。

②デジタルカメラ撮影の場合

《規格》 撮影画像サイズは、3000×2000ピクセル以上および、最高画質、FINEにて撮影したデジタル写真を推奨し、合成などの加工は不可です。

《応募方法》

(1) はじめに、選考用としてA4サイズ以上のプリントサンプル（写真用インクジェット紙または、印画紙）をお送りください。撮影者氏名・種名・撮影年月日・撮影場所（都道府県市区町村）を裏面または、余白に記載してください。

(2) プリントサンプルは、画像処理、トリミング、色補正を行なわないでください。

(3) 応募点数に上限はありませんが、厳選してご応募ください。

(4) 採用の場合は、デジタルデータをCD-ROM、またはメールでご提出していただきます。

(5) 選考過程で、デジタルデータの提出をお願いする場合があります。

《作品の返却について》

(1) プリントサンプルは、原則として採用・不採用に関わらず返却致しませんのでご了承ください。

(2) 返却を希望する場合は、応募票の返却希望の□に✓をしてください。ただし、返却方法は宅配便の着払いのみとなりますのでご了承ください。

※返却不要の場合は、審査終了後に処分致しますのでご了承ください。

【送付方法】

フィルムまたはプリントサンプルを封筒に入れ、簡易書留、レターバック、または宅配便でお送り下さい。

【審査結果】

採用・不採用に関わらず2026年7月中旬頃までに直接通知致します。



◇お願い◇

(1) 応募作品の返却および作品について問い合わせをするときに必要となりますので、下記の「応募票」に必要事項をご記入のうえ必ず同封してください。

※個人情報の取扱いは、作品の返却・問い合わせ等に利用し、それ以外での利用は致しません。

(2) 事故防止のため、作品はキズがつかないように充分な梱包をしてお送りください。

なお、郵便事故については責任を負いかねますので、ご了承ください。

※応募作品の取扱いには十分注意致しますが、万一の事故に対する責任は負いかねますのでご了承ください。

(3) 採用作品は、「日本の野鳥カレンダー2027」の他に機関誌、ホームページ、広報用印刷物等に使用致します。

【お送り先・お問い合わせ先】

公益財団法人 日本鳥類保護連盟 カレンダー写真応募係
〒166-0012 東京都杉並区和田3-54-5 第10田中ビル3F
TEL: 03-5378-5691 FAX: 03-5378-5693

担当: 吉田 yoshida@jspb.org

岡安 okayasu@jspb.org

<https://www.jspb.org/calendar2027>



日本の野鳥カレンダー 2027 [応募票]

(フリガナ) 氏 名			
住 所 〒			
電 話			
E-mail			
応募総数	カラーズライド 枚	プリントサンプル 枚	
プリントサンプルの返却	☐ 希望する※返却方法は宅配便の着払いのみとなります。		
撮影マナーの確認	☐ マナーを守った野鳥撮影をしました。 ※ご確認いただけない場合は審査対象にはなりません。		

■表紙

ホオジロガモのディスプレイ	野口好博	1・2月号
キセキレイ	中島慶二	3・4月号
オオヨシキリ	内田 博	5・6月号
ブッポウソウ	上木辰彦	7・8月号
ハチクマ	久野公啓	9・10月号
近すぎたトラツグミ	吉田裕樹	11・12月号

■ネイチャーフォト (表2)

エナガの冬の暮らし (江口欣照)		
植物豆知識〈37〉 “定点ウオッチング” の楽しみ。(杉嶋光明)		1・2月号
桜の季節 (江口欣照)		
植物豆知識〈38〉 どうする、どうなる? 気になる木 (杉嶋光明)		3・4月号
珍しいホオジロの仲間 (江口欣照)		
植物豆知識〈39〉 不思議な切り株を“探偵”しよう (杉嶋光明)		5・6月号
カワセミの行動 (江口欣照)		
植物豆知識〈40〉 ご近所散歩で、不思議発見! (杉嶋光明)	7・8月号	
関東で出会った珍しいシギ (江口欣照)		
植物豆知識〈41〉 図鑑の解説を、図解で理解。(杉嶋光明)	9・10月号	
紅葉の季節 (江口欣照)		11・12月号

■スタッフだより (表2)

台湾のまちにカラスがいないわけ (中島慶二)	1・2月号
犯行現場を押さえました (岡安栄作)	3・4月号
春先のカラスに注意! (小倉秀介)	5・6月号
シジュウカラの親子 (松永聡美)	7・8月号
エダシャクとアキアカネ (藤井 幹)	9・10月号
南半球の星空 (吉田裕樹)	11・12月号

■特集

1・2月号	野鳥を知る・楽しむ (道東編)
	冬の道東おすすめ探鳥地 (本藤泰朗)
	横着して楽しむ冬の野鳥観察 (高田令子)
	カモのディスプレイ (連盟 調査研究室)
3・4月号	野鳥を知る・楽しむ (南西諸島編)
	奄美群島おすすめ探鳥地 (鳥飼久裕)
	奄美大島の夜の森に入り浸っているとやがて空がしらみ始める (石田 健)
	わからないからおもしろい、アマミヤマシギのディスプレイ (水田 拓)
	夜の鳴き声を楽しむin奄美大島 (松永聡美)
5・6月号	野鳥を知る・楽しむ (湿地・河川敷・水辺編)
	水辺環境おすすめ探鳥スポット～東日本編～ (箕輪義隆)

水辺環境のおすすめ探鳥地～西日本編・米子水鳥公園～
(三原菜美)

「じーっと観察する」おもしろさを教えてくれる水辺の
鳥たち (神戸宇孝)
擬傷と擬態と擬攻撃～砂礫地や砂浜の生存戦略～
(松永聡美)

UVレジンでアクセサリーを作る (まーうえ)

7・8月号

野鳥を知る・楽しむ(山地・高山帯編)
山地・高山のおすすめ探鳥地 (飯島大智)
登山で鳥も観察しよう! (上田恵介)
換羽について (藤井 幹)

9・10月号

フィールドスケッチの楽しみ方 (水谷高英)
野鳥を知る・楽しむ～タカの渡り～
タカの渡りを楽しもう (久野公啓)
タカの渡り観察地紹介①: 山本山 (中山正則)
タカの渡り観察地紹介②: 萩谷総合公園
(小林正和、小林綾子)
タカの渡り観察地紹介③: 烏帽子岳 (今里順一郎)
サシバの渡りルート全容解明プロジェクト
(連盟 調査研究室)

11・12月号

野鳥を知る・楽しむ～都市緑地～
都市公園での野鳥観察 (中村忠昌)
都市公園おすすめ探鳥地①:
小田原城址公園 (神奈川県) (小泉俊江)
都市公園おすすめ探鳥地②:
富岩運河環水公園バードサンクチュアリ (富山県)
(湯浅淑子)
都市公園おすすめ探鳥地③: 京都御苑 (山副茂彦)
都市公園おすすめ探鳥地④: 尾関山公園 (広島県)
(漆谷光名)

野鳥を詠む俳句 結果発表

■生きものはつながっている

雪の足跡探検 (小宮輝之)	1・2月号
雪の中で植物観察を楽しもう (杉本晴美)	1・2月号
キセキレイ (藤井 幹)	3・4月号
清らかな流れとともに生きる水生昆虫「カワゲラ」 (石橋浩次)	3・4月号
ヨシ原を賑わすオオヨシキリの子育て (笠原里恵)	5・6月号
水辺の生きもののゆりかご ヨシ原 (秋山幸也)	5・6月号
ブッポウソウ (漆谷光名)	7・8月号
“ヤンマ” と呼ばれるトンボ (木村和未)	7・8月号
メジロの渡り (藤井 幹)	9・10月号
野鳥と果実 目立つから美味しいとは限らない! ? (秋山幸也)	9・10月号
トラツグミ (中島慶二)	11・12月号
ムカデを観察しよう (奥山風太郎)	11・12月号



■羽根探偵

羽根探偵の謎解きファイル ～エピソード1～（郷上マナツ）	3・4月号
羽根探偵の謎解きファイル ～エピソード2～（郷上マナツ）	5・6月号
羽根探偵の謎解きファイル ～エピソード3～（郷上マナツ）	7・8月号
羽根探偵の謎解きファイル ～エピソード4～（郷上マナツ）	9・10月号
羽根探偵の謎解きファイル ～エピソード5～（郷上マナツ）	11・12月号

■単発記事

登録者のバードピア紹介 学校法人長津田学園ながつた幼稚園	3・4月号
登録者のバードピア紹介 明泉学園フェリシアの森	5・6月号

■連盟の活動

年頭所感（小宮輝之）	1・2月号
令和7年度 愛鳥週間ポスター原画コンクール 入賞者&入賞作品！	1・2月号
【第二弾】絶滅危惧種サシバの保全を皆の手で。渡りの全容解明への挑戦	1・2月号
日本の野鳥カレンダー2026 写真募集！	1・2月号
第58回全国野生生物保護活動発表大会が開催されました！ （連盟 普及啓発室）	1・2月号
第58回全国野生生物保護活動発表大会 講評	1・2月号
支部会議のご報告（連盟 事務局）	1・2月号
本州でのトキ野生復帰・定着支援プロジェクト進捗状況（名執芳博）	3・4月号

私たちが自然保護活動から学んだこと その1 （第58回全国野生生物保護活動発表大会 発表校）	3・4月号
全国一斉テグス（釣り糸）拾い2024報告	3・4月号
私たちが自然保護から学んだこと その2 （第58回 全国野生生物保護活動発表大会 発表校）	5・6月号
クラウドファンディングの御礼とご報告（連盟 調査研究室）	5・6月号
毎年、5月10日から16日は「愛鳥週間」BIRD WEEK	
5・6月号ヒナを拾わないで!! キャンペーン	5・6月号
本部主催のテグス拾いを実施しました（連盟 事務局）	7・8月号
第79回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」開催報告	7・8月号
総裁賞受賞者のことば（上田恵介）	7・8月号
私たちが自然保護から学んだこと その3 （第58回 全国野生生物保護活動発表大会 発表校）	7・8月号
野鳥を詠む俳句を募集します	7・8月号
柳澤紀夫氏が旭日単光章を受賞されました！	7・8月号
ライフ×サントリー ご支援について	7・8月号
国際サシバサミット2025 宇検村奄美大島	9・10月号
第59回全国野生生物保護活動発表大会	

応募校野生生物保護活動資料の公開と一般投票について	9・10月号
全国野生生物保護活動発表大会への寄付について	9・10月号
日本鳥学会2025 年度大会に参加しました（連盟 調査研究室）	11・12月号
子ども鳥博士 参加者募集！	11・12月号
日本の野鳥カレンダー2026 写真募集	11・12月号

■書評コーナー

『鳥のなかま&分類・系統図鑑』（小宮輝之）	9・10月号
-----------------------	--------

■連盟だより

寄付をしてくださった方	1・2月号～11・12月号
新会員のみなさん	1・2月号～11・12月号
使用済み切手・カード類を送ってくださった方	1・2月号～11・12月号
愛鳥懇話会を開催しました	1・2月号
オンライン決済システムによる会員更新について	1・2月号
訃報（前日本鳥保護連盟茨城県支部長 海老原龍夫氏）	3・4月号
福井県支部事務局 移転のお知らせ	3・4月号
「日本の野鳥カレンダー2026年」写真募集	3・4月号
テグス（釣り糸）拾い2025	3・4月号
令和7年度の会員証ができました	5・6月号
愛鳥週間用ポスター原画貸し出し企画	5・6月号
「日本の野鳥カレンダー2026」発売開始！	9・10月号
令和7年度第1回理事会・定時評議員会の報告	9・10月号
「日本の野鳥カレンダー2024」取扱い店	11・12月号

■表3広告

遺贈寄附のご案内	1・2月号
第79回愛鳥週間 全国野鳥保護のつどい 開催のお知らせ	3・4月号
令和7年度 愛鳥週間用ポスターができました	5・6月号
遺贈寄附のご案内	7・8月号
「日本の野鳥カレンダー2026」	9・10月号
シマフクロウステッカーデザインコンテスト2025 結果発表	11・12月号

■表4（裏表紙）広告

特別展「鳥～ゲノム解析が解き明かす新しい鳥類の系統～」	1・2月号
羽根アクセサリー	3・4月号
羽根アクセサリー	5・6月号
株式会社カンゼン カンゼンの「鳥の本」ラインナップ	7・8月号
国際サシバサミット 2025宇検村奄美大島	9・10月号
巣箱	11・12月号

■2025（令和7年）年間目録	11・12月号
-----------------	---------

使用済み切手・カード類提供のお願い



使用済み切手やカード類（パスカードは除く）を収集して現金化し、活動資金として自然保護に役立てています。切手は、消印も含めて封筒から切り取った状態でお送りください。なお、未使用切手、書き損じのハガキもよろしかったらお送りください。カード類（テレホンカード、図書カード、各種交通機関カード、ダムカード、文化遺産カード、ジオカード、ゲームカード）は、表面に



セロテープやホチキスを使用しないようお願いいたします。

（担当：岡安）

商品の注文について



商品のご購入は代金先払いでお願いしています。ゆうちょ銀行の定額

小為替、現金書留、郵便振替のいずれかで、商品名・個数・お届け先住所・氏名・電話番号（昼間の連絡先）をお書き添えのうえ、お申し込みください。なお、請求書、納品書を必要とされる場合は、担当までご相談ください。（担当：岡安）

バックナンバーの提供について



観察会等を主催する会員の方に、機関誌バックナンバー＋入会案内を無料でお分けしています（ただし、梱包送料はご負担いただきます。金額についてはお問い合わせください）。ご希望の方は、①お名前、②ご住所、③電話番号、④使用予定日、⑤希望数をご記入のうえ、FAX・郵便・e-mailのいずれかで、編集担当の吉田までご連絡ください。

会費の振替用紙について



振替用紙は、会費納入月の統一にあたり、年1回、3・4月号に綴じこ

んでありますので、ご了承の程、お願いいたします。

広告募集

本誌では広告を随時募集しています。種類は、裏表紙カラー、本文カラー1頁、本文モノクロ1頁・1/2頁・1/3頁・1/4頁です。詳細は、編集担当の吉田まで、お問い合わせください。

編集後記

▼今回初の試みとなった「野鳥を詠む俳句」。どのくらい集まるか心配でしたが、300名近くの方から投句いただき、うれしい驚きでした。今回は最優秀・優秀作品11句のみのご紹介となりましたが、審査で印象に残った句のいくつかは、ホームページなどでご紹介できればと思います。（吉田）

ご支援をお願いします

会費・ご寄付は下記の郵便振替口座へ
口座番号：00150-9-19214
加入者名：公益財団法人 日本鳥類保護連盟
※送金の内訳をお忘れなくご記入ください。

【年会費】

特別支援会員	1口	10,000円
個人正会員	1口	5,000円
家族会員	1口	1,000円
学生会員（学生・生徒）	1口	3,000円
法人会員	1口	20,000円

【一般寄付（愛鳥募金）】

当連盟の活動全般に有効に活用させていただきます。

【使途指定寄付】

シマフクロウ、サシバ、奄美大島の希少鳥類の保護など、使用目的を指定していただく寄付です。

詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.jspb.org/kihu>

なお、公益財団法人への2千円を超える寄付金は、寄付者の所得税などの税控除の対象になります。

主な連絡先のEメールアドレス

一般的な問い合わせ：webmaster@jspb.org
愛鳥教材について：岡安 hukyu@jspb.org
調査・保護について：松永 research@jspb.org
機関誌について：吉田 editor@jspb.org
バードピアについて：岡安 birdpia@spb.org
会員・会費について：吉田 kaiin@jspb.org

私たちの自然

第66巻 11・12月号 通巻No.661 2025年11月1日発行
定価 1,200円（税込）（会員の購読料は会費に含まれます）
発行：公益財団法人 日本鳥類保護連盟
代表者：小宮輝之 編集長：中島慶二
編集主幹：吉田裕樹
編集委員：藤井 幹
松永聡美

ISSN 0910-6987

©2025 Japanese Society for Preservation of Birds
誌面デザイン・印刷：日本印刷（株）

公益財団法人 日本鳥類保護連盟
〒166-0012 東京都杉並区和田 3-54-5 第10 田中ビル 3F
TEL：03（5378）5691 FAX：03（5378）5693
ホームページ：<https://www.jspb.org/>
事務局業務時間 9:30～17:30（土・日・祝祭日休）



facebook：<https://www.facebook.com/jspb.org/>
X（旧 Twitter）：<https://twitter.com/jspb2020>



日本鳥類保護連盟会員限定サイト
<https://www.jspb.org/members>
パスワード：jspb661
会員限定サイトでは『私たちの自然』バックナンバー（過去1年分）閲覧と一部の商品を会員限定価格で購入できます！



第7回

シマフクロウステッカー

デザインコンテスト2025 結果発表

第7回シマフクロウステッカーデザインコンテストにたくさんの応募をいただき誠にありがとうございました。

審査の結果、ペンネーム スナフキン さんの「コタンコロカムイ」が最優秀作品に選ばれました。

リアルに描かれたシマフクロウとその生息環境は、まるでその場に居合わせたかのような臨場感です。シマフクロウとあわせて、川面に映る月光と川の主のように悠々と泳ぐ大きな魚が幻想的な世界観を醸し出している点も秀逸です。

最優秀賞には選ばれませんが、最後まで候補に残った10点を優秀作品として選出しました。

受賞者の皆さま、おめでとうございます！



最優秀作品

千葉県 スナフキン さん

デザインタイトル「コタンコロカムイ」

こちらの作品のステッカーを作成し、シマフクロウ保護のための普及啓発および寄付金を募るために使わせていただきます。
詳しくはステッカー特設ページをご覧ください。
特設ページへのアクセスは連盟 HP または右の QR コードから



優秀作品



茨城県 サマタナナミ さん



埼玉県 赤堀 紫乃 さん



東京都 にしかたみえ さん



神奈川県 小池 博章 さん



神奈川県 大谷 美紀 さん



ハナヤマ さん



兵庫県 わせみ さん

過去の受賞作品はこちら



岡山県 ふわり さん



広島県 朽尾 愛子 さん



高知県 岩木 鈴花 さん



第1回



第2回



第3回



第4回



第5回



第6回

実用新案取得!

2つ穴巣箱

販売価格 2,620 円(税込) ※別途送料

外敵に侵入された際、通常の出入口とは別に側面の穴から逃げ出せるように設計された、2つの出入口を持つ巣箱です。

日本鳥類保護連盟が考案し、営巣率の調査を行った結果、通常の巣箱に比べて高い営巣率が確認されました。実用新案を取得しており、他では取り扱いのない、オリジナルの巣箱です。

自然にとけこむ
小さな命を支える

スズメ・カラ類用

巣箱

**丈夫で
長持ち!**

サントリー育林材 巣箱

販売価格 3,960 円(税込) ※別途送料

サントリーの育林材(ヒノキ)を使用した巣箱です。ヒノキは耐湿・耐水性に優れており、屋外に設置する巣箱の材として最適です。美しい木目も魅力の一つです。

「サントリー天然水の森」でもこの巣箱を使用し、野鳥の保護活動に役立てられています。

スタンダード巣箱

販売価格 2,620 円(税込) ※別途送料

間伐材(杉)を使用した、標準的な形状の巣箱です。防腐剤は使用しておらず、定期的に手入れをすることで繰り返し使うことができます。

安心の定番!

※すべて組み立てた状態で発送します。
組み立て前の状態をご希望の方はご連絡ください。

【送料】1個/710円、2~3個/1,200円、4個以上/ご相談ください
【納期】1週間程度
(注文数によって異なります。詳しくはお問い合わせください)

お問合せ・ご購入は
こちらから

巣箱設置のコツも
紹介しています!



日本鳥類保護連盟では野鳥に関する商品を扱っています
詳しくはホームページをご覧ください

<https://www.jspb.org/shohin>



公益財団法人 日本鳥類保護連盟



電話・FAXでの

お問合わせ・ご注文こちらから

〒166-0012

東京都杉並区和田 3-54-5

第10 田中ビル 3F

TEL: 03-5378-5691 FAX: 03-5378-5693

商品の売り上げは全て当連盟の公益活動のために使われます